

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年4月1日				
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	学校等の体育カリキュラムと運動し、放課後の活動として無理のない範囲で多様な運動経験ができるよう、安全なスペースとプログラムを確保しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%	0%		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	活動の切り替え時に机の配置変更等を徹底し、視覚的な構造化を図ることで、学習と遊びのメリハリをつけ、児童が主体的に行動できる環境を整えています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	集中して学習に取り組みたい児童やクールダウンが必要な児童のため、パーティション等で区切られた個別対応スペースを常時確保しています。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	排泄や生活スキル等のデータを職員間で共有・分析し、個別の支援目標の更新と手法の統一（PDCA）を適切に図っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	保護者アンケート等でいただいたご意見は職員間で共有し、具体的な改善策を検討して日々の支援や環境整備に反映させています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	定期的な面談やミーティングを設け、現場職員の気づきや提案を迅速に汲み取り、業務効率化や支援内容の改善につなげています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%	自己評価に加え、第三者評価等の外部視点を積極的に取り入れることで、事業所運営の客観的な課題を把握し、質の向上に努めています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	外部研修への参加推奨に加え、法人内での伝達研修や事例検討会を定期開催し、全職員の専門的知識とスキルの底上げを図っています。	
適切な	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	本人・保護者のニーズを丁寧に聞き取り、学校での様子も参考にしながら、客観的な視点で課題を分析し、計画作成に繋げています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	児童発達支援管理責任者だけでなく、直接支援員全員が意見を出し合い、多角的な視点から児童の最善の利益を考慮した検討を行っています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	独自のツールを活用し、生活スキルや適応行動を客観的に記録・保存。支援の根拠としてアセスメントを深めています。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	学校の長期休暇や季節の行事に合わせ、職員全員が企画に参画。多様な経験を提供できるよう研修の機会も設けています。	

支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	児童の興味関心の変化や発達段階に応じ、新しい教具の導入やルールの調整を柔軟に行い、常に新鮮な刺激が得られるよう工夫しています。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	個別・集団と時間を設けて行っています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	当日の主担当・副担当の役割を明確に定め、児童一人ひとりの当日の体調や、特に配慮すべき学校での出来事等を共有して支援に臨んでいます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	終礼時に当日の状況を振り返り、良かった点や課題を共有。業務日誌等への確実な記録により、職員間での情報共有と支援の継続性を保っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	日々の支援内容を詳細に記録し、週・月単位で振り返りを行うことで、支援の有効性を検証し次回の改善（PDCA）に繋げています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	児童の成長や環境の変化に合わせ、定期的なモニタリングを実施。支援計画が現状に即しているかを適宜判断し、必要な見直しを行っています。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%	0%	自立支援、創作活動、地域交流、余暇の提供をバランスよく組み合わせ、放課後の時間を有意義に過ごせるようプログラムを構成しています。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	児童が自ら選択・決定できる場面（活動の選択や順序など）を意識的に設け、主体性を育むための環境構成と声掛けを行っています。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	本人の状況を熟知した職員が会議に参画。他機関と情報を共有し、会議での専門的な助言を遅滞なく支援計画へ反映させる体制を整えています。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	就学前の支援施設と情報を共有し、児童の発達特性や支援のポイントを継続させることで、環境変化による負担を軽減しています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	年間計画や学校行事を踏まえ、下校時刻の確認や送迎時の連携を密に行い、学校生活と放課後活動の相乗効果を図っています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	0%	児童が以前利用していた施設での支援経緯を参考にし、これまでの積み重ねを活かした個別支援を行っています。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	0%	700%	卒業後や他の福祉サービスへの移行時には、本人の特性や有効な支援手法に関する情報を整理・提供し、スムーズな移行を支援します。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%	0%	児童発達支援センター等との定期的な情報交換を行い、必要に応じてスーパーバイズを受けることで、支援の専門性を担保しています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%	0%	保育所・学校等と連携し、地域行事や公園活動を通じて他児と触れ合う機会を創出。社会参加とインクルージョンの視点を重視しています。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	家庭での生活支援のコツや発達理解を促す情報を定期的に配信。保護者の相談に応じ、養育スキルの向上をサポートしています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	運営規定や支援プログラムの内容、利用料金等について、重要事項説明書等を用いて保護者に分かりやすく、丁寧に説明しています。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	計画作成時には保護者の想いや家庭での状況を十分に聞き取り、共感的な理解に基づいた目標設定を行っています。

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	放課後等デイサービス計画の内容を提示し、支援のねらいや具体的な手法について十分な合意を得た上で署名をいただいています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%	0%		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	座談会や行事の開催を通じて保護者同士の交流を促進し、育児の悩みを共有できるコミュニティ形成を支援しています。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	苦情受付窓口を掲示等で周知し、寄せられたご意見には迅速かつ誠実に対応し、組織的に再発防止や改善に取り組む体制を構築しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	個人情報保護方針を定め、写真の利用や情報の外部提供については事前に保護者の承諾を得るなど、管理を徹底しています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	視覚支援ツールの活用や分かりやすい言葉選びにより、児童本人や保護者との円滑な意思疎通と信頼関係の構築に努めています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	地域住民への事業紹介や行事への招待（現在は制限がある場合も考慮）を通じ、地域に根ざした開かれた事業所運営を目指しています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	定期的な防災・避難訓練を実施し、有事の際の支援継続体制を構築。今後は保護者も想定した訓練を計画・実施予定です。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	主治医の指示や保護者からの連絡に基づき、服薬やアレルギー等の健康状態を職員間で確実に共有し、安全な支援を行っています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	アレルギーのある児童については医師の診断書等を確認し、除去食の提供や誤食防止の手順を徹底しています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	設備の安全点検やヒヤリハット分析を含む安全計画を策定し、未然に事故を防ぐための環境整備と職員への周知を行っています。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	策定した安全計画や災害時マニュアルの内容を保護者に周知し、有事の際の連携体制について共通理解を図っています。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	虐待防止マニュアルを整備し、全職員がセルフチェックや研修を継続することで、常に高い人権意識を持って支援にあたっています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%			